白楽サテライトライブラリーから
山中資料センターへの資料移転作業と今後の運用

木下（きのした）　和彦（かずひこ）
（三田メディアセンター課長）

最初に：移転作業アルバム

【白楽サテライトライブラリーでの搬出作業】

① 白楽の書架

④ 書架移転作業中
書架が解体され，とても広く感じます。

② ブックトラックへの積み込み作業

【山中資料センターへの搬入作業】

⑤ 山中資料センター２号棟の全景

③ ダンボール箱詰めの資料もありました

⑥ 最初は２階の半分にだけ書架がありました

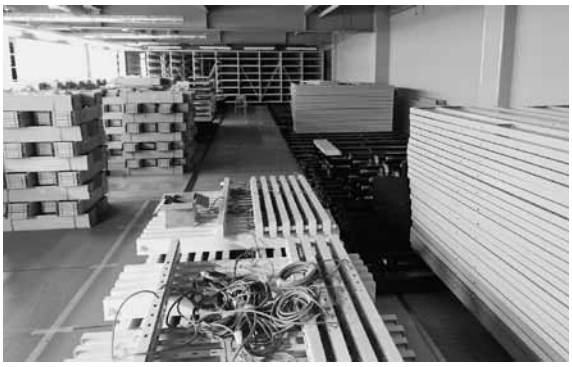
特集2　新たな保存書庫：山中資料センター2号棟

⑦ ２号棟前に横付けされたトラック

⑧⑨（上２枚）搬入経路を養生しています

⑩ 資料を書架に並べています

⑪ 着々と資料が収まっていきます



⑫ 山中側での書架組み立て作業
白楽で解体された書架が運び込まれました

【大雪】（2016年１月27日撮影）

⑬ ２号棟前

⑭ １号棟前

⑮ ２号棟入口は見事に雪かきされました

1　山中資料センター２号棟への資料移転

(1) 移転作業の概要

白楽サテライトライブラリー（以下，白楽）から移した資料の総数は約45万冊で，これを2015年11月と2016年１月の２回に分けて山中資料センター（以下，山中）に移転しました。移転にかかった日数は実働で29日，つまり資料を移すだけで１か月以上もかかったことになります。

具体的なスケジュールは以下の通りです。

第１回：2015年11月４日～11月24日
　実働日数：14日間
　移転冊数：約275,600冊（総棚数：8,973段）
　白楽の配架場所：３階の全てと４階の1/3弱
　山中の移転先：２号棟２階（２階のおよそ半分）

第２回：2016年１月13日～１月27日
　実働日数：15日間
　移転冊数：約177,000冊（総棚数：5,519段）
　白楽の配架場所：４階の2/3強
　　※書架分に加えダンボール約1,500箱
　山中の移転先：２号棟２階（２階のおよそ半分）

(2) 経緯

今回，このように大規模な資料移転を実施することになったのは，15年以上に亘り利用してきた白楽サテライトライブラリーの賃借契約が2015年末で解消されることになったためです。この代替としてもう一つの保存書庫である山中資料センター（１号棟）の隣に，新たに２つ目の書庫（２号棟）を建設することになり，白楽の全ての資料をこちらに移すことになりました。この詳細については，本号の別の記事をご覧ください。

(3) 事前準備 その１：資料配置図の作成

白楽では，常駐スタッフが書架の使用状況を随時モニターしており，詳細な書架状況図が存在していました（図１）。そのためこの図面を元に，山中で必要な書架の数を割り出すと同時に，資料の種類ごとに書架の区切りを適切に設けられるような資料配置図を作成することができました。この状況図がなければ，移転が決まってから状況を把握するだけでも相当な時間をとられたはずで，いちはやく山中の資料配置図を作成することは，山中に本当に資料が収まるのか，収まった後にどのくらいの余裕が書架に生まれるのかを，早い段階で関係者全員が把握するのに役立ちました。

また図面だけではなく，これと並行して白楽では移転作業を円滑にするため，各棚に空きをもたせていたところをあらかじめ資料を詰めて配置し直す作業も進めました。前述の山中の資料配置図の作成に加え，白楽の実際の書架状況を山中移転後の棚状態と一致させたことで，この配置図案が正しいかどうかの検証も行うことができ，最終的には移転してみなければどうなるかわからないという不安を抱えることなく，作業当日を迎えることができました。

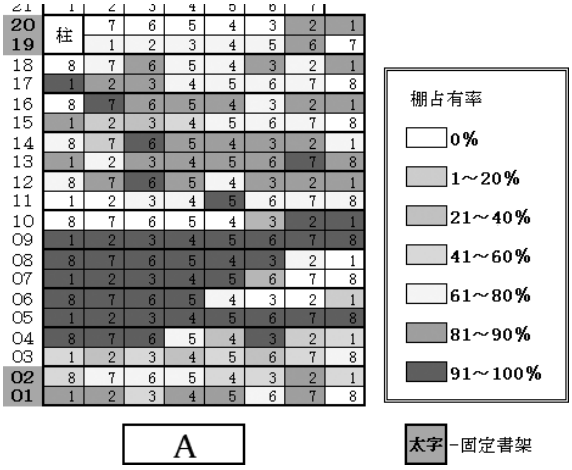


図１　白楽の書架状況図

(4) 事前作業 その２：貸出中資料の対応

図２　代本板

今回の移転では，白楽での書架１棚（１段）分がそのまま山中の１棚（１段）に平行移動するように計画を立てました。また前項でも触れたとおり，無駄なスペースが生じないよう，資料をなるべく詰めて配置することが求められていました。全ての資料が書架にある状態であれば，こうした作業は何の問

題もないのですが，実際には日々利用者への貸出などを行っていましたので，本が抜かれた箇所にはすき間ができます。このすき間を誤って詰めてしまうと，後日貸出された資料が戻ってきたときに，棚に戻せなくなってしまうという問題がありました。

このような事態を防止するために，貸出中の箇所に代本板をいれるようにしました（図２）。移転作業には多くの人がかかわりますが，誰が見てもこの箇所は戻り本のために開けておく必要があることが一目瞭然となり，誤って本を詰めてしまうトラブルを未然に防ぐことができました。

(5) 事前作業 その３：蔵書点検

これだけの大量の資料を移転するとなると，行方不明の資料が出てしまう可能性があります。あとから追跡調査ができるように，白楽資料全点の蔵書点検（インベントリー）を実施することにしました。これによって，移転作業直前の資料の有無が把握できますので，万が一移転後に資料がみつからない場合でも，それが移転作業によるものかどうかを見極めやすくなります。

ただし点検といっても45万冊もの資料が対象となるため，話は簡単ではありません。本学では通常のインベントリーは職員が行っていますが，今回は専門業者に委託することにしました。作業は事前に用意した資料リストと，資料それぞれに貼られているBook-IDのバーコードを読み取って照合するというやり方で，10月５日～９日の４日間という短い期間でインベントリーを完了することができました。これほど短い日数で完了できたのは，委託業者がスタッフを大量に動員してバーコードの読み取り作業を夜間も使って迅速に行った結果だといえます。

(6) 移転作業スケジュールの調整

概要で述べたとおり，移転作業は２回に分けて実施しました。一度に全ての資料の移転を実施できなかったのには理由がありました。それは，少しでも全体費用を抑えるために，白楽で使用していた集密書架を山中で再利用することにしたからです。最初のロットの移転のために新規の書架が必要でしたが，その後は移転した資料が使っていた書架を山中に移し，次に移転する資料はそこに移す，ということを繰り返すことになりました（図３）。書架の移転作業が遅れれば，その後の資料移転作業にも影響する一方，白楽からの撤退期限は決まっている上に，山中を含めた全体の作業は年度末となる３月末までに完了させる必要があったため，このスケジュール調整は非常に神経を使うものとなりました。

なお２月～３月にかけて移された書架には，2016年度以降，各メディアセンターから資料が移される予定になっています。

(7) 大雪！

移転作業のスケジューリングをした時から，１月～２月の大雪は最大の心配事でした。山中湖周辺では前年も大雪があり，周辺は除雪機なしでは通行できないほどだったということで，こればかりは天候次第ですが，とにかく搬入時に雪が降らないことを祈るばかりでした。１月になると，やはりうっすらと降雪がありましたが，作業への支障はなかったので安心していたところ，１月18日は前日夜半から雪が降り，朝方には30cmを超えるほどの積雪となってしまいました。

山中湖でも一般道路は除雪車が入りましたが，一般道から２号棟への脇道は除雪されなかったためト

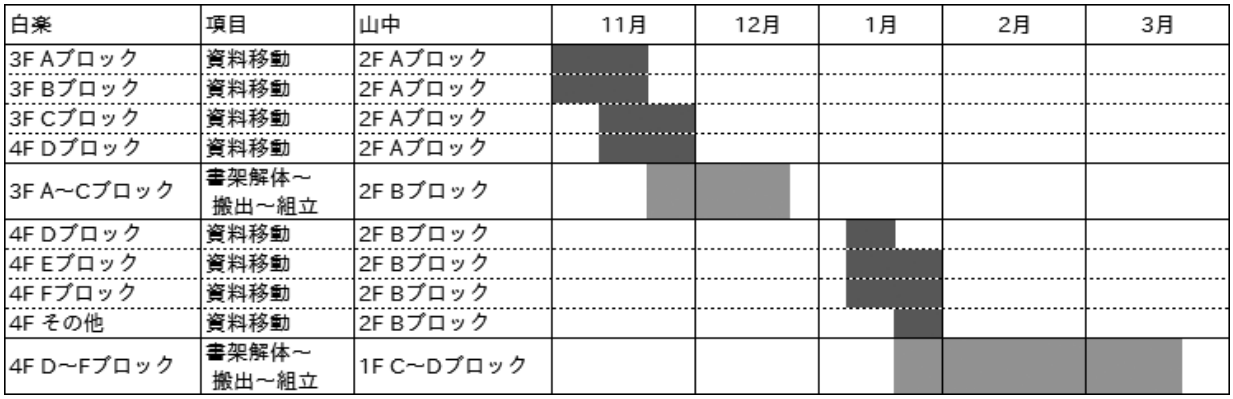


図３　白楽から山中への移転作業工程表（イメージ）

ラックが進入することができず，せっかく山中湖まで到達したトラックも２号棟の直前で足踏みせざるを得ない状況となりました。幸い昼過ぎに除雪機が入り，ある程度の除雪ができましたが，出入口など細かなところは手作業で雪かきを行なう必要があり，資料の搬入が開始できたのは午後になってからでした。当初はトラックが荷を積んだまま東京に戻らないといけないかということまで覚悟していただけに，作業の遅延も想定の範囲に収まり，まさに不幸中の幸いだったといえます。冒頭に載せた写真は，降雪から10日ほどたった１月27日に撮影したものですが，まだ相当量の雪が残っていることからも，当日の様子をうかがい知ることができます。

(8) 所蔵データの変更

移転作業の中には，図書館システムに登録されている所蔵データを修正することも含まれます。資料の配架場所の情報が正しく更新されないと，せっかくKOSMOS（OPAC）で必要とする資料を見つけても，その資料を実際に手にすることができなくなってしまうからです。45万件もの所蔵データの修正にはプログラム処理で１ヶ月以上かかるという試算が出ており，決して簡単なものではありません。しかも移動作業は長期に渡るため，配架場所情報の変更に加え，作業期間中は資料が利用できないことをデータに反映させる必要があり，この状態変更作業を何度か行う必要がありました。

資料の所蔵元である，三田，日吉，理工学，湘南藤沢の各メディアセンターがそれぞれ所蔵データの修正内容をまとめ，それをメディアセンター本部の目録担当が取りまとめてシステム担当と調整するという手順を踏みました。最初の変更作業は11月に，２回目は全ての資料移転が完了した２月に実施し，２月末までには，所蔵データを現状に即した状態に修正することができました。

(9) 移転作業中の運用

2015年春の時点では，移転作業計画全体のスケジュールの詳細は決まっていませんでした。しかし利用者への影響を最小限にとどめるために，はやめに広報を行う必要がありました。降雪などによるスケジュールのずれ込み等にも対応できるよう余裕を見込んだ半年間にわたる利用停止措置をとることにし，対象資料の利用は2015年９月末をもって停止し，山中移転後の利用再開は４月開始とした広報をすることにしました。

６か月間も資料が利用できなくなることから，10月以降に使用する可能性のある資料は早めに借出しておいていただくよう呼びかけるとともに，特例として貸出期間を移転終了後の2016年４月13日まで延長する措置を取りました。その結果，10月時点では1,800冊を超える白楽資料が貸し出されていました。

公式には事前広報通り10月に貸出を停止しましたが，その後もレファレンスデスクなどに問い合わせのあった資料については，資料移転作業に影響がないことを確認しながら極力柔軟に対応しました。

2　山中資料センターにおける運用

(1) 運用方針の見直し

白楽運用時から資料は各メディアセンターへの取寄せによって利用者に提供しており，山中移転後もこの運用方法に変わりはありません。しかしながら，保存書庫に資料を保管する，という考え方の部分では，今回大きな方針の変更がありました。それは，山中に移転したすべての資料は，どのキャンパスのメディアセンターであっても自由に取寄せができる，というものです。これまでは保存書庫に置かれていても，その資料は所蔵元のメディアセンターのものであるため，一部の資料に利用の制約がありました。貸出による利用を基本とする単行書はすべてのキャンパスの利用者がすべてのメディアセンターの資料を取り寄せて借りることができましたが，製本雑誌やレファレンスブックなどは所蔵しているメディアセンターだけにしか取り寄せることができませんでした。この制限を，保存書庫に置くと決めた資料については取り払うことにしたのです。

このような方針変更には背景があります。今回，山中資料センターに２号棟という新しい書庫が建設されましたが，それは白楽がなくなるという事態への対応のためであり，メディアセンターが従来から大学当局に対して要望している，書架スペースが足りなくなっている状況への抜本的な打開策という位置づけではありませんでした。今回新たな書庫が建設され白楽移転分に加えて約50万冊規模の書架が増えたことは大変喜ばしいのですが，本来の意味での保存書庫建設の見通しはさらに遠くなったとも言えます。そのため今後の書架問題に向き合うためには，既存の書庫スペースの有効活用が大きな問題と

して改めて浮上することになったのです。これまでも，各キャンパスから保存書庫に移す資料が重複している場合がありましたが，運用ルールの違いなどにより重複のまま残しそれぞれ書架スペースを必要とすることがありました。今回，保存書庫に移す資料についての全塾的な共通ルールを決めたことで，このような重複資料を一本化していくことに弾みがつき，書架スペースの一層の有効活用が期待されます。

(2) 体制の変更

山中１号棟の配架資料は製本雑誌が多かったため，複写業務が中心でしたが，２号棟は図書が中心となり現物貸借が主となるため，山中における業務内容も変化を迫られることになりました。また管理対象となる資料がほぼ２倍となりますので，その意味でも従来の体制で維持していくのは困難です。

２号棟ができる前，山中資料センターは常勤１名，非常勤２名で，実質的には毎日２名体制で運営されていました。白楽サテライトライブラリーは常勤２名での運用でした。過去の白楽の運用実績と，山中での現行の運用体制への影響を慎重に検討した結果，2016年４月からは常勤３名体制で運営することになりました。

(3) 今後の課題

a　破損本

今回の移転にあたり，書誌データが登録されていなかった白楽資料については，目録の遡及入力が実施されました。未登録資料は年代が古く，状態もあまりよくないものが多かったのですが，こうした資料がKOSMOSで検索できるようになったことから，古い資料の利用も相対的に増えることになりました。その結果，取り寄せてみると状態が悪く，そのまま利用者に提供してよいものか，カウンターで判断に迷うケースが増えています。

現在は山中から送付する際に，状態の悪い資料は中性紙封筒に入れて送付してもらい，利用が済んだところで山中への返却前に修理するよう対応していますが，抜本的な対策は難しいところです。

b　大型本の再配置

事前に山中移転後の書架状況を把握できたとはいうものの，あらかじめ設定した書棚の高さや奥行にあわない資料もあります。普通なら，資料を横倒しにして書架に収めるなどの対応をするところですが，収納効率を上げるために集密書架（移動式書架）を採用しているため，そのようにすると書架を動かす際に資料が傷むため，このような資料を洗い出して再配置を行っています。

ただ棚から別置される資料が多くなると，より多くの書架を使うことになり，効率が悪くなってしまいます。資料が傷まないようにすることは大前提ですが，どのように再配置するべきかをもう一度検討する必要があるのではないかと考えています。

3　さいごに

今回の移転は白楽貸借契約の解消が契機であり，いわば突発的に起こったため，検討を開始してから移転が完了するまでの期間は３年しかなく，短期決戦という言葉がまさにあてはまる一大事業となりました。関係者も多岐に渡り，管財部を中心に，メディアセンターも全地区が一丸となって事にあたったほか，書架設置や資料移転についても，実際に作業にあたった業者の方々の多大な貢献があって，はじめて滞りなく完遂させることができました。簡単ではありますが，この場をお借りしてこの事業に携わった全ての方に感謝申し上げます。